Press Release

2022 年 2 月 14 日
株式会社マイナビ

マイナビ転職、「週休 3 日制の意識調査」を発表

週休 3 日制、「収入が減るなら利用したくない」が約 8 割で、収入減少への不安が大きい
給料と休み、どちらかを選ぶとしたら、20 代・30 代は「休み」、40 代・50 代は「給料」

株式会社マイナビ（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：土屋芳明）が運営する総合転職情報サイト『マイナビ転職』（https://tenshoku.mynavi.jp/）は、正社員男女 800 名を対象に行った「週休 3 日制の意識調査」の結果を発表しました。本調査では、週休 3 日制の利用意向、週休 3 日制に対する不安や期待、休みと仕事満足度の関係、仕事選びにおける休みの重要性などが明らかになりました。

≪TOPICS≫
- ◆ 週休 3 日制の利用意向について、「収入が減るなら利用したくない」が 78.5%。休みが増えることへの期待よりも、収入減への不安が色濃く見られる【図 1、2、3】
- ◆ 今よりも休みが増えた場合、仕事へ与える変化は「収入が減りそう」（35.0%）、「効率的に仕事を進めるよう努力しそう」（26.5%）【図 4】
- ◆ 6 割が今の職場で週休 3 日制は「不可能」。年収が高い層や若い年代ほど「可能」という回答が多い【図 5、6】
- ◆ 週休が多い人ほど仕事満足度が高い傾向に。休みと給料どちらかを選ぶとしたら、20～30 代では「休み」、40～50 代では「給料」の割合が高い【図 7、8】

【調査結果の概要】

・週休 3 日制の利用意向について、勤務日数の減少に併せて収入も減少する場合、週休 3 日制を「利用したくない」が約 8 割（78.5%）に達した。一方、収入は変わらず 1 日当たりの労働時間が増える場合、「利用したい」と回答したのは約半数（46.1%）、1 日の労働時間も収入も変わらない場合は「利用したい」が 8 割（77.9%）となった。週休 3 日制の利用意向には、収入の減少が大きく影響することが分かった。【図 1、2、3】

・週休 3 日制に限らず、今より休みが増えたときに想定される仕事への影響を尋ねると、「収入が減りそう」が最も多く（35.0%）、「効率的に仕事を進めるよう努力しそう」（26.5%）、「長く働き続けられそう」（25.3%）が続いた。前述の結果と同様に、休みが増えることに対しては仕事への好影響よりも、収入減少に対する不安感が大きいことがうかがえる。【図 4】

・今の職場で週休 3 日制は可能かについて、「不可能」（「どちらかというと」を含む）と回答した人は 60.1%で、「可能」（39.9%）を約 20pt 上回った。不可能と思う理由を自由回答で聞くと、「仕事量が多いから」や「人手不足」の意見が多く、他には「仕事内容的に難しい」や「属人的業務があるため」など職種や業務内容による理由もみられた。また、年収が高い層や若い年代ほど「可能」の回答が多かった。【図 5、6】

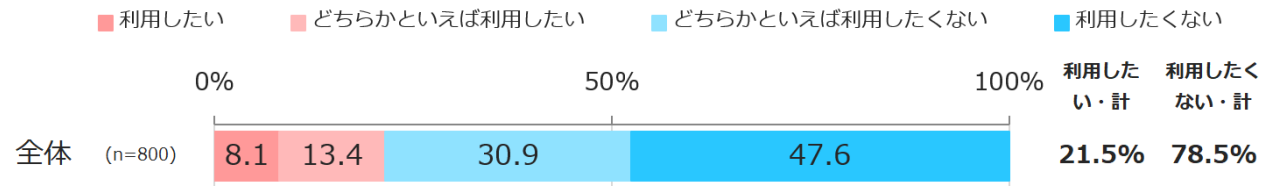
・仕事の満足度と週休の関連性について、週休が多い人ほど仕事満足度が高い傾向にある。また「給料は高いが休みは少ない」「給料は少ないが休みが多い」どちらがよいか聞くと、全体では“休み重視”“給与重視”が半数ずつで拮抗しているが（給料は高いが休みは少ない：50.1%、給料は少ないが休みが多い：49.9%）、年代別に見ると 20～30 代では「休み」、40～50 代では「給料」を重視する割合が高かった。若年層ほど休みを重視しており、若手社員のエンゲージメント向上において「休み」は大切な要素であることが分かった。【図 7、8】

【総評】

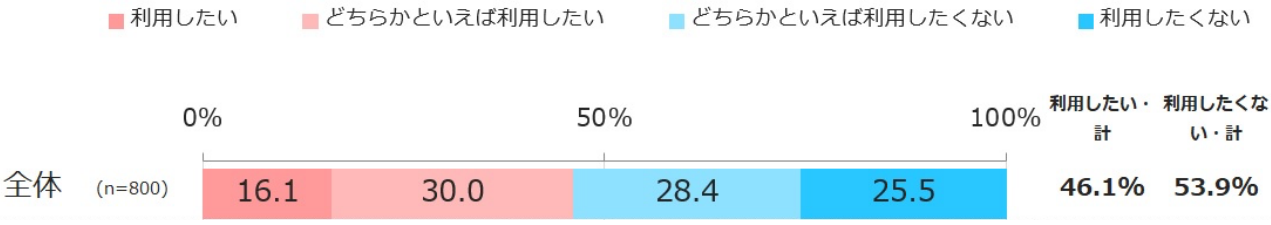
一部の企業で導入が見られ始めた「週休 3 日制」。企業側としては、子育て世代や介護世代の離職の防止、余暇時間増加による社員のスキルアップなどを期待する声が聞かれますが、働き手の意識としては、収入減少への危機感が顕著にうかがえる結果となりました。
とはいえ、休みの多さと仕事満足度や生活満足度はある程度比例するという一面も明らかになり、人材を定着させるという観点では、社員のライフステージやモチベーションに合わせて、週休日数を選択可能にするというのも一つの方法かもしれません。
ただし、週休 3 日制が難しい理由として「人手不足」が一定数あがったことから、導入する際は、業務の効率化や自動化、社員間で不公平感が生じないようにする配慮なども、併せて検討する必要がありそうです。

『マイナビ転職』編集長
荻田泰夫

【図 1】週休 3 日制の利用意向：勤務日数の減少に合わせ収入も減少する場合

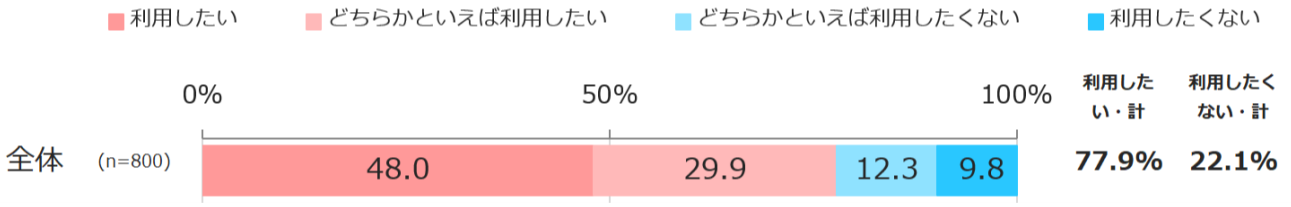


【図 2】週休 3 日制の利用意向： 1 日の労働時間が増えて、収入は変わらない場合

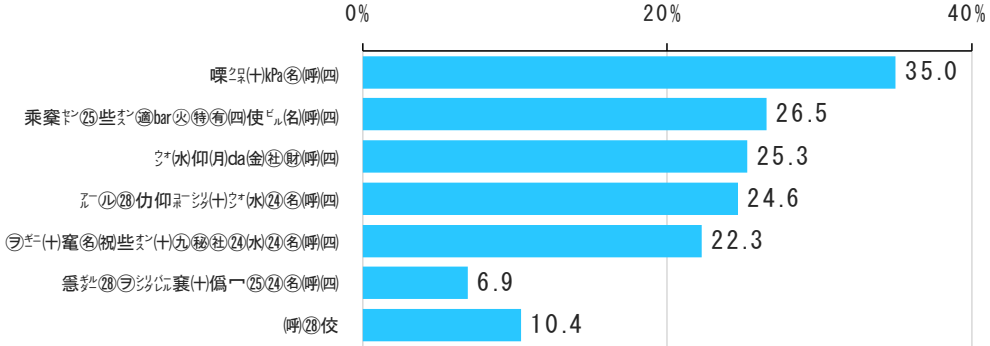


【図 3】週休 3 日制の利用意向：勤務日数が減少しても収入が変わらない場合

※1 日の労働時間の長さも変わらないものとする



【図 4】休みが増えた場合の仕事への影響（複数回答）



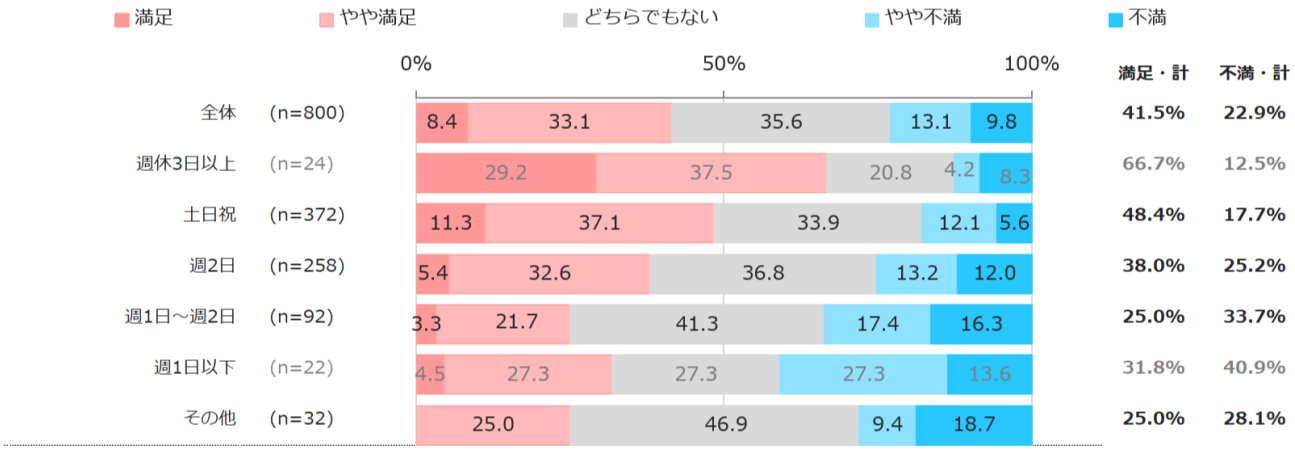
【図 5】今の職場で週休 3 日制は可能か

		n=	可能	どちらかといえば可能	どちらかといえば不可能	不可能	可能・計	不可能・計
全体		800	15.1	24.8	33.8	26.3	39.9	60.1
年代別	20代	200	17.5	30.0	34.5	18.0	47.5	52.5
	30代	200	18.0	20.0	35.5	26.5	38.0	62.0
	40代	200	11.5	26.5	33.0	29.0	38.0	62.0
	50代	200	13.5	22.5	32.5	31.5	36.0	64.0
週休実態別	週休3日以上	24	54.2	29.1	12.5	4.2	83.3	16.7
	土日祝	372	16.9	28.0	36.8	18.3	44.9	55.1
	週2日	258	14.7	27.2	33.3	24.8	41.9	58.1
	週1日～週2日	92	3.3	11.9	37.0	47.8	15.2	84.8
	週1日以下	22	4.5	4.5	9.1	81.9	9.0	91.0
	その他	32	9.4	15.6	28.1	46.9	25.0	75.0
年収別	400万円未満	254	16.1	20.9	33.5	29.5	37.0	63.0
	400～800万円未満	327	13.5	28.4	33.9	24.2	41.9	58.1
	800万円以上	103	21.4	28.1	29.1	21.4	49.5	50.5
	分からない・答えたくない	116	12.1	19.8	38.8	29.3	31.9	68.1

【図 6】今の職場で週休 3 日制が可能／不可能と考える理由（自由回答）

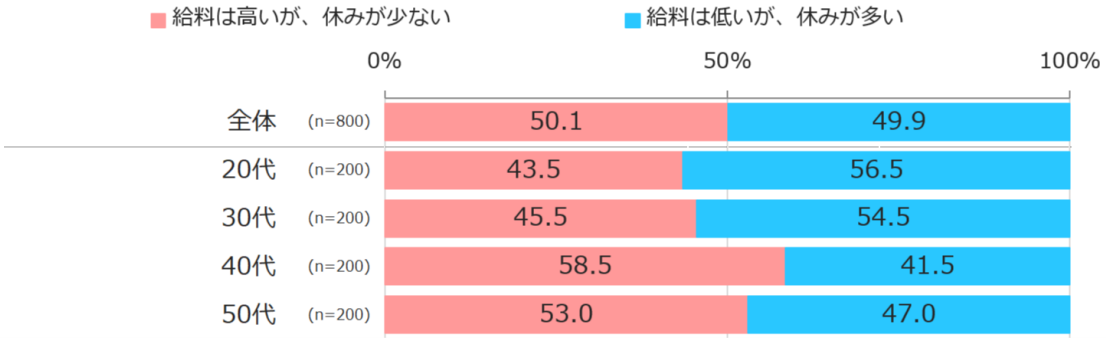
属性	回答		属性	回答	
20代	可能	無駄な会議などがあるように感じるから	20代	不可能	関係会社が動いてる以上は休めないため
20代	可能	交代で曜日を調整すればなんとかなりそうだから	20代	不可能	同じ業界全体で取り組まないとできないから
30代	可能	仕事量に余力があるから	30代	不可能	シフト制の為、人が足りなくて無理
30代	可能	1日あたりの業務時間を増やして、無駄な業務を削減したり、効率化すれば何とかなる	30代	不可能	業務量が多いのでできない。 また他の得意先などとの取引もあるので難しい
40代	可能	業務分担の見直しをすれば、可能となると思う	40代	不可能	人手不足で、ただでさえ大変なのに週３日は無理だっと思う
50代	可能	在宅ワークの活用にて作業分担効果があるとわかったため	40代	不可能	収益の落ち込みをカバーするのが困難
50代	可能	IT系なのでAI化がすすめば	50代	不可能	仕事をする日にしわ寄せが来そう

【図 7】今の仕事の満足度と週休の関連性



※「週休 3 日以上」「週 1 日以下」は n 数が少ないため参考数値

【図 8】給料と休み、選ぶとしたらどちらがいいか



【調査概要】マイナビ転職『週休3日制の意識調査』

調査期間：2021 年 12 月 24 日（金）～12 月 27 日（月）
調査方法：正規雇用者を対象にWEB調査を実施
有効回答数：800名（内訳：20～50代　各年代200名）
※グラフの内訳は端数四捨五入の関係で合計数値と合わない場合があります

上記のほか、余暇時間の使い方、週休 3 日制が可能・不可能な理由、導入のために必要な対策、仕事選びにおける休みの重要性、週休実態別転職意向なども調査しています。

調査結果の詳細は下記「マイナビ転職 キャリアトレンド研究所」で公開しています。
https://tenshoku.mynavi.jp/knowhow/careertrend/09

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
転職情報事業本部　サイト運営第 2 部
コンテンツ企画 1 課
Email：mt.conts@mynavi.jp

【当社に関するお問い合わせ先】
株式会社マイナビ
社長室　広報部
Email：koho@mynavi.jp